

数次にわたる集団発掘の状況を着実に記録してあり、たかしよいちはこの分野の優れた書き手で、『太陽と黄金とジャングル』（八二）は南米の古代オルメカ文明の謎を追う興味深い旅行記である。太平洋戦争中のでき事を書いた記録も少なくないが、高木敏子『ガラスのうさぎ』（七七）は空襲下を生きた少女時代をリアルに描いた体験記であり、大城立裕『対馬丸』（八二）は撃沈された沖繩学童集団疎開の悲劇の報告である。吉田ルイ子『ぼくの肌は黒い』（七八）はカメラマンの目で見たアメリカでの黒人差別の実態を鋭く捉えた報告であり、小池喜孝『北海道の夜明け』（八二）は明治政府による囚人労働使役の実態を探り出した記録である。これらはヒューマニズムに立って現代を捉え直し、社会の在り方や人間の生き方に鋭く迫るとともに、諸事実の背後に潜む真実を探り出す謎解きの面白さをもっている。最も可能性のある現代的な文学分野である。

（勝尾金弥）

レ

レアンター リヒャルト Richard Leander 一八三

〇一八九 ドイツの外科医、作家、詩人。本名リヒャルト・フォン・フォルクマン。普仏戦争（一八七〇〜七二）に軍医総監として従軍、パリを包囲中に童話を書いては、故国の子どもたちに送った。それを帰国後まとめて、レアンターの筆名で発表したのが、今日まで読み継がれる『ふしぎなオルガン』（七二）である。収録される民話風の小品はいずれもファンタスティックで心むものである。

（若林ひとみ）

レイ H・A Hans Augusto Rey 一八九八〜一九七

七 アメリカの絵本作家。ドイツ生まれだが、ブラジルで長く貿易業に従事したのち、同じくドイツ出身で絵や写真の仕事をしていた夫人マーガレットとともに、フランスで創作活動をはじめ、一九四〇年アメリカに移住した。広く人気を博している『ひとまねごさる』のシリーズは、『ひとまねごさるときいろいろいぼうし』（二

九四一、英国版「四二」には「ゾゾ」にはじまり、好奇心いっぱいでもやってみたがる仔猿の「じょーじ」が、人間の世界へ連れてこられて引き起こすさまざまな騒ぎを、ユーモアたっぷりに描いている。絵は漫画的で芸術的評価は必ずしも高くないが、きわめて子どもらしい喜怒哀楽を全身で表現しながら生き生きと動きまわる主人公には、幼い読者の熱い共感を呼ぶ力が備わっている。『ひとまねこざるたこをあげる』(五八)、『どうながのプレッツェル』(五〇)などでは、文が夫人の作となっているが、明記されていないものもしばしば共作である。(脇 明子)

令女文学全集 れいじょぶんがく 一〇代の少女向きの叢書。一九二九年(昭四)七月〜三〇年(昭五)七月。全一五巻。平凡社刊。各巻一作家あるいは二作家の小説集・詩集の体裁をとっており、それぞれ代表作を表題としている。収録作品は「少女の友」「少女倶楽部」「令女界」など、当時の少女雑誌に掲載されたものが多い。吉屋信子、北川千代、横山美智子、西条八十ら少女小説の代表的作家に加えて、加藤武雄、長田幹彦、片岡鉄兵、長谷川時雨ら文壇作家・大衆作家の作品をも含む。(横川寿美子)

レオーニ Leo Lionni 一九一〇〜 アメリカのグラフィック・デザイナー、絵本作家。正しい表記はレオ・リオニ。アムステルダムで生まれ、少年期

をベルギー、フランス、スイス、イタリアで過ごす。チューリヒ大学、ジェノバ大学院卒。一九三九年にアメリカに移住、四五年に帰化。オリベッティ社や「フォーチュン」誌のアート・ディレクター、パースン・デザイン校のグラフィック・デザイン部長、アメリカ・グラフィック・アート協会会長などを務める。孫に聞かせたことで誕生した『あおくとときいろちゃん』(二九五九)は丸くちぎった青と黄の色紙だけで愛を描いた、準抽象画で具象画以上に明快に物語を語りえた絵本史上の画期的作品。カラージュの手法で描いた『ひとあしひとあし』(六〇)もきわめて斬新なデザインの絵本で、『スイミー』(六三)はBIB世界絵本原画展で金のリンゴ賞を、『フレデリック』(六七)はコールデコット次点賞を受けている。(吉田新一)

歴史小説 れきしせつ 過去の歴史上の事実を題材に、人間の普遍性を表現した文学と一応定義できるが、優れた作品例が多く、具体的内容はきわめて多種多彩である。歴史を(『ふしぎの国のアリス』の中でねずみのドライでロングなテイルとして茶化されたような)単に事件と年号の無味乾燥な事実の羅列にせず、過去の現実を生き生き再現して提示しようとすれば、文学的・推理的想像力を働かせ、小説的提示がなされて、「子どもたちは歴史小説を楽しみながら読み、読みながら学んで」(ロックヘッド)いくことになる。歴史小説の最良最大の

生産国であるイギリスでは、このジャンルの開拓者で確立者の一九世紀はじめのスコットから現代の代表旗手サトクリフまで、過去の人間とその営みの中に真の人間らしさの実体を明確化するのに成功した歴史小説家は多い。我が国のかつおきんやの『天保の人びと』のような名もなき農民たちに対する作者の共感を軸に歴史をして語らしめようとするシリアスなタイプもある。が、一方芝居でコスチューム・プレイといって時代衣装(コスチューム)をつけた芝居いわゆる時代劇があるように、歴史小説でも時代小説というのがあって、またイギリスを例にいうと現代のカーフィールドの作は、時代は単に衣装ないし借景に過ぎず実は現代小説である。我が国にも吉川英治や大仏次郎のような通俗に墮さない大衆時代小説家がいる。このタイプは主に大衆に人気の高い時代や人物を中心に描かれ、娯楽性の強いタイプといえよう。イギリスには今一つ現代と過去を一線につなげるタイム・ファンタジーというタイプの歴史小説がある。代表例はアトリーの『時の旅人』で、史実を正確に踏まえ、現代人が過去のゴーストとリアルに交わりつつ過去を現代によみがえらせる。こういう作品の生まれる基盤には歴史あるいは時間についての認識、現代を過去と未来の結び場との認識から歴史というものの受けとめ方があり、ここになぜイギリスに歴史小説が豊かかの答えが潜んでいると

思う。

レコード童謡レコード童謡 一九一八年(天7)に創刊された「赤い鳥」にはじまる童謡運動は、当時の一流の音楽家の参加もあって、当時の知識層に歓迎された。各種の児童雑誌は楽譜つきの童謡を掲載し、それが子どもたちに歓迎されていた。そうした風潮の中で、「ニッポノホン」のレーベルで『かなりや』(西条八十作詩、成田為三作曲)のレコードが発売され、その成功でレコード各社が競って童謡のレコードを制作した。昭和に入ると童謡運動自体は下火となり、児童雑誌も廃刊されるものが多くなったが、量産体制を整えたレコード各社によって、レコード童謡だけは次々につくられていった。『あの町この町』『雨降りお月さん』(野口雨情作詩、中山晋平作曲)や『うれしいひなまつり』(サトウハチロー作詩、河村光陽作曲)、『あの子はたあれ』(細川裕太郎作詩、海沼実作曲)など、現在でも愛唱されている数多くの童謡がレコード童謡として制作されたが、一方で子どもの流行歌としての量産化が、創作童謡の質の低下を招いたことも否定できない。(天畑祥子)

レジャーニ ルネ Renee Reggiani 一九二五
イタリアの児童文学作家。ミラノに生まれ、演劇学校に学び、女優として舞台に立ったり、ラジオ・ドラマ、テレビ・ドラマの仕事にも携わった。彼女が児童文学にかかわりはじめるのは一九五九ごろで、処女作は

(吉田新一)

戦災孤児を扱った『犬と五人の子どもたち』(一九六一)である。その後、シチリアの貧しい農村の子どもたちと学校問題を描いた『あした、あさって』(六四)で、その地位を不動のものにした。

(安藤美紀夫)

レップマン イエラ Jella Lepman 一八九一—一九七〇 国際児童図書評議会(ＩＢＢＹ)、ミュンヘン国際児童図書館(ＩＪＢ)の創設者、児童文学作家。シュツットガルト生まれ。夫の死後、新聞社で働き、政治活動にも積極的に参加した。ナチスの台頭とともにイギリスに移住、戦後再びドイツに戻り「子どもの本を通じての国際理解」を訴え、ケストナー、リンドグレーンらの協力を得て、ＩＢＢＹを創設する。

(田中安男)

レヒアイス ケーテ Käthe Reheis 一九二八—オーストリアの児童文学作家。『ちいさなビーバーと友だち』(一九六三)や『きつねのニケル』(六八)など、自然の中に棲む動物の生態が的確に捉えられ、しかも心の通った物語が多く、詩的リアリズムと評されている。インディアンのお話も多い。自然と一体になっている原住民の姿、またそれが侵入者によって壊されていく様を描いたもので、根本の姿勢は両者に共通したものがみられる。

(上田真而子)

レフグレン ウルフ Ulf Löfgren 一九三一—スウェーデンの画家、絵本作家。デビュー作『Barnen i djungeln シャンゲルの子ども』(一九五九)により、エ

ルサ・ベスコフ賞受賞。くっきりした描線と鮮やかな色彩をもつアニメ調の絵はユーモアがあり、早くから国際的な人気を勝ち得た。一九七七年ＢＩＢ世界絵本原画展グランプリを受賞。作品は『アルビンのわくわくおてつだい』(七五)ほか多数。最近はアンデルセン童話の絵本化に力を注いでいる。

(木村由利子)

レーベテフ ウラジミール・Ｂ Вранимир Васильевич Лебедев 一八九一—一九六七 ソビエトの絵本画家。ペテルブルグ(現レーニングラード)出身。美術学校で学び、ポスターなどで早くから革命に参加した。その後作家たちと協力し子どもの絵本を精力的に発表した。主にマルシャークとコンビを組んで『しずかなおはなし』(一九五八)、『ばかなこねずみ』(二五)など数々の名作を残した。写实的で温和な画風で知られるが、『こねこのおひげちゃん』(三〇)など初期の作品は大胆新鮮である。

(内田莉沙子)

レム スタニスワフ Stanisław Lem 一九二一—ポーランドの世界的なＳＦ作家。エッセイスト。クラクフのヤギエウォ大学医学部を卒業したが文学の道を選んだ。『火星からきた男』(一九四六)で文壇に登場。

『宇宙航行者たち』(五一)と『マゼラン星雲』(五五)でＳＦ作家として確固たる地位を築いた。哲学的で難解な点があるにもかかわらず少年の間にも熱狂的な愛読者が多い。日本でもよく読まれている。ほかに『ソラ

リスの陽のもとに』(六二)など。(内田莉沙子)

レムケ ホルスト Horst Lenke 一九二二— ドイツのイラストレーター。ベルリンに生まれ、のちにスイスへ移住。新聞の挿絵画家、商業デザイナーを経て、ケストナー作品の挿絵を、トリヤー亡き後担当した。『わたしが子どもだったころ』(一九五七)、『サーカスの小びと』(六三)、『五月二十五日』(六八)など。ほかにも、*テンネホルク、クリュスなどの作品の挿絵も多数ある。軽快なペン画で、子どもや動物をリアリステイックに描いている。(佐々木田鶴子)

レン ルートヴィヒ Ludwig Renn 一八八九— 一九七九 東ドイツの作家。ザクセンの貴族の息子としてドレスデンに生まれたが、マルキシズムに感銘し、一九二八年、ドイツ共産党に入党。長い亡命生活の後、ドレスデンに戻り、人類学の教授となった。すでに戦前から作家として名を知られていたが、五四年の『Trini トリニ』以来、『Nobi ノビ』(一九五五)、『Camilo カミロ』(六三)など、搾取や抑圧に対する自由の闘いをテーマとした青少年向きの本を、次々と発表した。(佐藤真理子)

レングル マデライン Madeleine L'Engle 一九一八— アメリカの作家、児童文学作家。スミスカレッジ、コロンビア大学卒。教員、大学客員作家、図書館員の経歴と併せて作家活動をする。『五次元世界のほう

けん』(一九六二)ニューベリー賞受賞作は、SF的発想ながら愛をテーマとする写実的*家庭小説の二面をもち、ヤングアダルト・ノベルの先駆けとなった。『The Young Unicorns 若きユニコーンたち』(六七)、『A Wind in the Door ドアをぬける風』(七三)そのほか多くの作品がある。(渡辺茂男)

レンスキー ロイス Loise Lenski 一八九三— 一九七四 アメリカの児童文学作家。オハイオ州のスプリングフィールドに生まれる。オハイオ州立大学で教育学、アート・ステューデント・リーグとウェストミンスター美術学校で絵画を学ぶ。幼児と小学校低学年を対象に、絵本、地方色豊かなりアリズム童話を数多く書いた。代表作には絵本に『ちいさいじどうしゃ』(一九三四)、『Papa Small スモールさんはおとうさん』(五七)、童話に『いちいっみの少女』(四五)などがある。(渡辺茂男)

任大星 レンジン 一九二五— 中国の児童文学作家。浙江省に生まれる。小学校の教員をするかたわら、一六歳から小説を書きはじめる。一九五四年に発表した『ぼくの妹』で、一躍文名をはせる。数カ国で翻訳され、また映画にもなり、第二次全国少年児童文学創作の一等賞を受賞した。五三年、弟の任大霖とともに上海少年児童出版社に入り兄弟で活躍する。そのほか、主な作品には『町に恐竜がやっってきた』(一九六三)、『獵

統』(七九)など多数がある。

(中島久美子)

任大霖

タレン

一九一九

中国の児童文学作家。

浙江省に生まれる。杭州師範学校在学中、「小朋友」に投稿、陳伯吹に激励され児童文学を志す。一九五三年、上海少年児童出版社に入り、以後、一貫して児童文学に携わる。最初の作品集『紅泥嶺物語』(一九五二)は、謝冰心の『小さき友へ』をまね、手紙の形式で書かれた。また、代表作『こおろぎ』(七九)で、第二次少年児童文芸創作の一等賞を、『氷雪消融時節』で八六年児童文学園丁賞を受賞した。そのほか、評論もあり、幅広く活躍している。

(中島久美子)

レント プレア Blair Lent 一九三〇

アメリカ

の絵本作家。ボストン美術館スクール卒後、タブロー画家として個展を開くまでになったが、幼時からの夢を捨て切れず、絵本作家へ転向。『The wave なみ』(一九六四)で一九六五年度、コールドコット次点賞を受賞した。その後、創作上の悩みに落ちたが、日本民話をも題材にした『The Funny Little Woman おかしなおばさん』(七三)でスランプを脱したばかりか、同書によって七三年度コールドコット賞を受賞するに至った。

(金平聖之助)

任德耀

ドレンヤオ

一九一八

中国の児童演劇の作家、演出家。中国革命の功労者で、晩年は国家名誉主

席も務めた宋慶齡(一八九三—一九八二)が上海で創設

した福祉団体「中国福利会」の文化事業として、一九四七年に設立された児童劇団「中国福利会児童芸術劇院」の創設期からの指導者。数多くの作品を書き、演出から舞台美術まで担当して活躍した。『友情』、『少年サッカーチーム』、『好伙伴之歌』、『宋慶齡和孩子們』など多くの劇作品がある。現在は同劇院の名誉院長で、八二年に結成された「中国児童演劇研究会」(公的性格をもつ全国組織)の理事長を務める中国児童演劇の長老。我が国でもその代表作『馬蘭花物語』が劇団仲間により五八年に初演されて以来くり返し上演され好評を受けている。

(富田博之)

口

老

舎

しやう しゃ ↓ ラオ ショ

朗読

どく

声を出して読むことを一般に音読という。語句や文章などの文字言語を声に出して読む(音声化)ことで、表現内容を相手に伝えるだけでなく、理解を確かにしたり深めたりすることができる。音読の中